

知床半島エゾシカ管理計画 第4期計画(2022~26)に向けての  
隣接地域におけるエゾシカ管理について  
検討主体の概要

### 検討主体

斜里町、羅臼町、北海道森林管理局の3者であることを確認

### 斜里町側

#### 【主な捕獲方法】

町による有害鳥獣捕獲（ウトロ高原）、北海道森林管理局による管理型捕獲（ウトロ東～金山川）、一般狩猟が中心

#### 【主な被害と被害把握方法】

- ・農作物への食害（農地の被害額・被害面積）
- ・森林植生被害、更新阻害（植生モニタリング、北海道森林管理局職員による踏査）

#### 【コミュニティベースの個体数調整への課題】

- ・利活用施設はあるが、地域の捕獲個体のみでは維持ができていない
- ・平成30年度、令和元年度の国有林野における銃猟への制限

### 羅臼町側

#### 【主な捕獲方法】

町による有害鳥獣捕獲、北海道森林管理局による管理型捕獲（春苺古丹）が中心

#### 【主な被害と被害把握方法】

- ・市街地への出没（聞き取り、接触事故件数等）
- ・森林植生被害、更新阻害（植生モニタリング、北海道森林管理局職員による踏査）

#### 【コミュニティベースの個体数調整への課題】

捕獲可能な箇所、捕獲個体数が少なく、近くに利活用施設がない

### 現状の方針

利活用等により地域への還元を意識しながら、被害の削減のための捕獲を維持する

### 課題

- ・捕獲効率の低下（夜間の個体出没、スマートディア化等）
- ・許容可能な指標の作成（個体数、森林の回復過程等、作成に要する情報が少ない）
- ・コミュニティベースの個体数調整